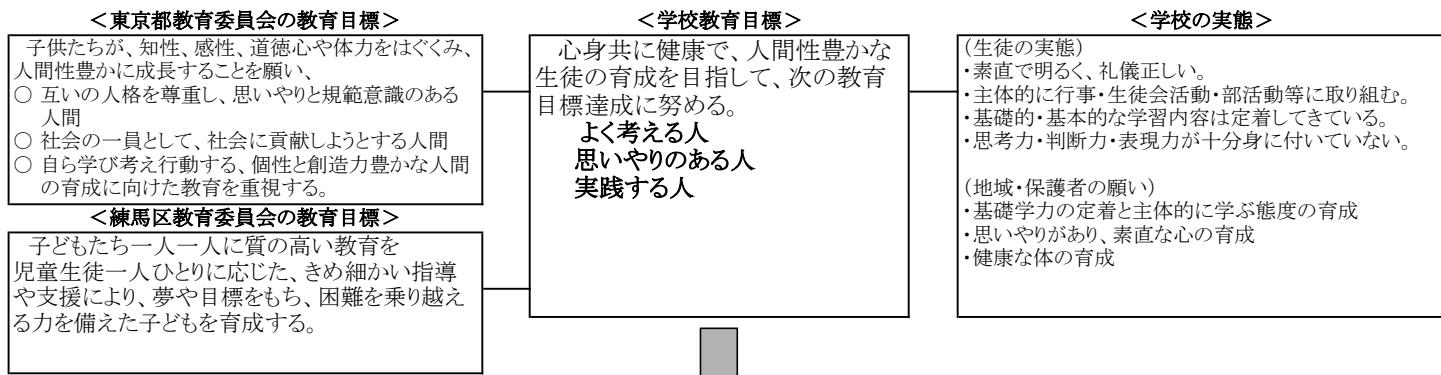


令和5年度 学力向上を図るための全体計画

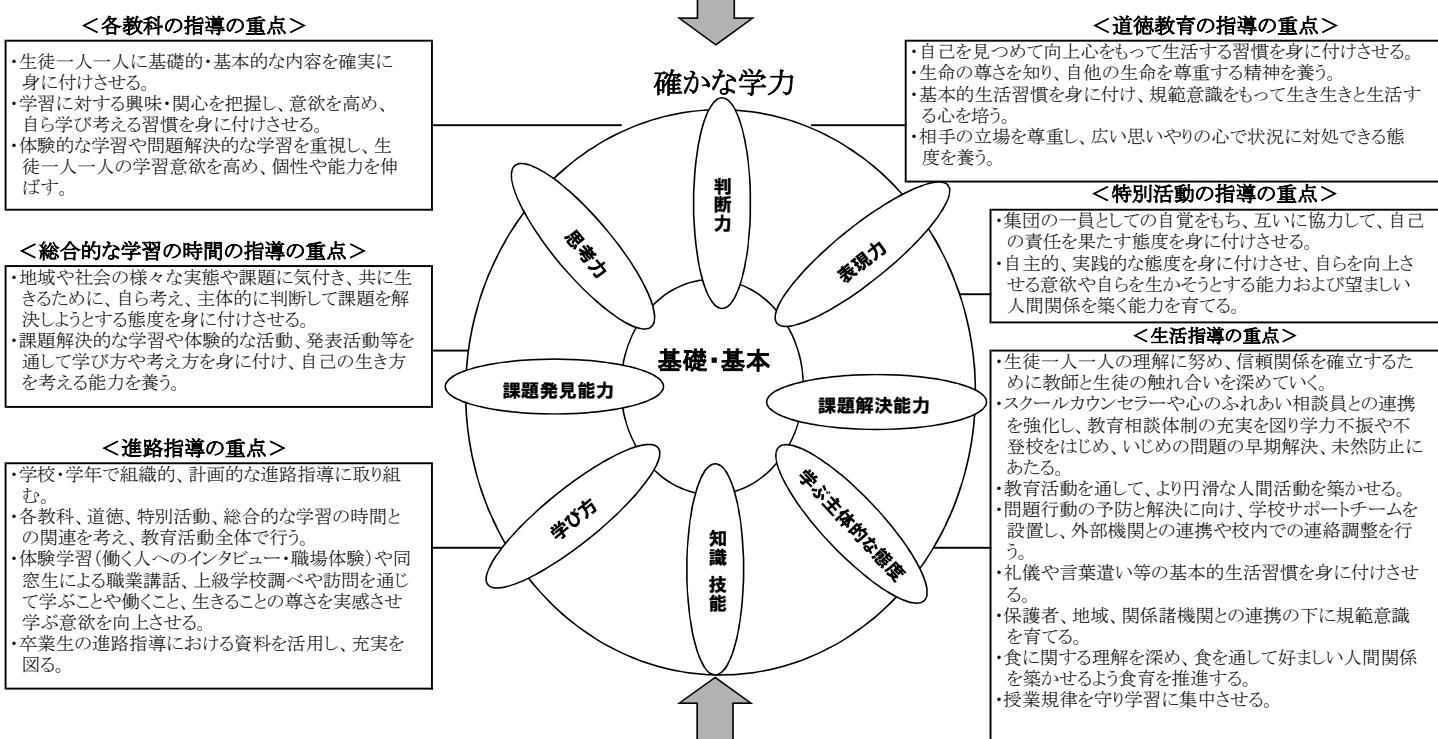


<学校の教育目標を達成するための基本方針>

人権感覚と国際感覚を身に付けた人材を育成するために、保護者や地域の理解と支援を受け、日々の教育活動を充実・発展させ、教師自ら範を示し研修を重ね高め合い、教育課題の解決をする学校を目指す。

（学习指導）
 ・授業内容の工夫・改善に努め、基礎・基本を定着させる。
 ・思考力や判断力、表現力を育て、生涯を通じて主体的に学習する意欲と態度を身に付けさせる授業を展開する。
 ・個に応じた指導を充実させる。
 ・学校2020レガシーを通して、奉仕的精神や障害者理解および国際感覚の醸成に取り組む。

（生活指導）
 ・人間尊重の精神を基調とする指導
 ・教員と生徒の信頼関係に基づいた指導
 ・基本的な生活習慣と規範意識の定着
 ・互いの人格と個性を尊重する態度の育成
 ・主体的に進路を選択できる能力の育成



<本校の授業改善に向けた視点と工夫>				
教育課程編成	校内の研究や研修	評価活動	家庭や地域との連携	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 個別指導、グループ別指導など指導方法の工夫改善を図り、学力補充教室の実施により基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせる。 生徒の主体的な学校生活への取組を重視する。 体験的な活動、課題解決的な学習活動を重視する。 貫井図書館と連携し学校図書館を活用した読書活動を推進する。 数学および英語で習熟度別少人数指導を行い、個に応じた学習を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解を深め、個に応じた指導の充実を図る。 各教科での教員相互の授業研究や研究授業を通して、授業改善を図る。 教員の特別支援教育に関する理解を深め、適切な支援を行う。 学習指導要領を踏まえた研究や研修の充実を図る。 校内研究テーマを、「自らの考えを伝えられる生徒の育成」へ対話的指導の工夫へとする。 各教科で「学校レガシー2020」の取り組みを推進し、体力向上・健常保持増進とともに、日本の伝統文化の理解、奉仕の精神や国際感覚の醸成、障がい者理解を図り、心身ともに調和のとれた人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、3観点の評価について年間を通して計画的な見取りを行い、適切な評価・評定を行う。 道徳において、年間を通して学習計画し、活動を通して道徳性に係る自己の成長を見取り評価する。 総合的な学習の時間において、3年間を通してした学習計画に基づいて、評価の観点や評価基準を設定し、学習状況を適切に評価する。 評価標準を明確にし、指導と評価の一體化を図り、肯定的な評価の工夫を行うことで生徒の学習意欲を高める。 生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に生かす。 適切な評価・評定の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携して、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 地域の教育力を取り入れた授業を積極的に実施する。 保護者による学校評価アンケートを実施し学校運営や授業改善に生かす。 職場体験学習を地域の多くの事業所等との連携により推進する。 学校地域連携事業により、夏季学力補充教室、定期考查前の学習教室等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携小学校との連絡協議会を活性化させ、生徒の情報交換を密にする。 小学校での学習内容を踏まえ、中学校の学習内容のオリエンテーションをしながらスムーズに授業を受けられるようにする。 職場体験学習では連携小学校も体験場所の一つとして交流を図る。 小学生に部活動体験や見学、校内見学等の機会を作り、連携を深める。 各教科グループにより課題共有シートを作成し、小中で連携した指導を実践する。

<授業改善策の検証方法>

- 授業改善のねらいの達成度や手だての効果を、生徒の学習状況の分析、評価及び授業アンケート、学力調査等から検証し、次の改善策を修正する。